

徒然草 兼好法師 ある人、弓射る」とを習ふに

①ある人、弓射る」とを習ふに、諸矢をたばさみて的に向かふ。

②師のいはく、「初心の人、二つの矢を持つ」となけれ。

③のちの矢を頼みて、初めの矢になほぞりの心あり。

④毎度ただ得失なく、この一矢に定むべしと思へ。」と言ふ。

⑤わづかに二つの矢、師の前にて一つをおろかにせんと思はんや。

⑥懈怠の心、自ら知らずといへども、師」れを知る。

⑦」の戒め、万事にわたるべし。

⑧道を学する人、タベには朝あらん」とを思ひ、朝にはタベあら

ん」とを思ひて、重ねてねんじるに修せん」とを期す。

⑨いはんや一刹那のうちににおいて、懈怠の心ある」とを知らんや。

⑩なんぞ、ただ今の一念において、ただちにする」とのはなはだかたき。